



Yonago East Weekly

●創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 TEL (0859) 32-5531
 ●例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ホテルサンルート米子 米子市西福原1-1-55 TEL (0859) 33-0911
 ●会長/圓道紀三郎 ●幹事/杉原弘一郎 ●会報/伊藤慎哉 ●用紙/王子製紙(株)米子工場

出席報告

会員数 77 名 出席数 40 名 欠席数 32 名 出席率 55.56% 出席免除会員数 6 名 (荒川(雄)君 笠井君 村上君 田中(伊)君 戸田君 和田君)
 前回補正出席率 6 / 8 84.51% 6 / 1 85.92%

欠席者

足立君 深田君 細田君 秦野(愛)君 秦野(一)君 池田(義)君 池田(豊)君 今井君 井上(博)君 井上(清)君 芦立君 小土井君 北沢君 水島君 松本(啓)君 前畑君 前田君 国頭君 宮岡君 長棟君 西村君 野津君 尾沢君 佐田山君 妹尾君 田淵君 宮崎君 寺崎君 田中(薫)君 内田君 吉岡君 渡辺君

メーカー

小土井君 (6 / 15 岡山旭川)

ビジター

西村良鉦君 本田雅一君 松岡晃君 (6 / 15 米子南) 安本辰雄君 都田和昭君 安田寿朗君 山中将嘉君 森山陽君 細谷洋一郎君 松澤弘一君 奥田厚司君 福田俊雄君 門脇豊三郎君 辻田哲郎君 宮田日出世君 (6 / 15 米子中央) 足立統一郎君 木村隆之君 足立収平君 (6 / 15 境港) 三保文嗣君 (6 / 22 米子南)

来賓

皆生トライアスロン協会・広報部長
 日本イベント業務管理者協会・中四国本部長
 (株)エス・アイ・シー企画室長 高木均氏
 会長挨拶

先週は例会がお休みでしたので、毎週お会いしている皆様に会えなかったのは寂しいものでございます。残すところ任期もあと僅かとなり、ほっとしております。来週は夜間例会ということでたくさんの方のご出席をお願いいたします。任期も残り僅かとは本来ならばいろいろと懺悔の言葉など言うべきかもしれませんが、皆様に評価していただくものなので、どうだったでしょうか。

すでに次年度の石井会長、高橋幹事とも活発に準備しておられるようです。来月のクラブ協議会のご案内もすでにまいっております。今さら私が来年のことを言う必要はございません。私は記念すべき 100 周年の年に会長をさせていただき、本当に私の一生の中でも心に残る 1 年であったと思います。ロータリークラブは次々と役員を引き継

いで行かれるのですが、私の好きな長島元巨人軍監督の言葉をお借りしますと、「ロータリークラブは永遠に不滅です。」ということでございます。

新入会員紹介

田村雄二君 大山日の丸証券米子支社長 奥様松江出身でご自宅もあります。



幹事報告

1. 原ガバナー事務所より
 青少年交換派遣学生壮行会の案内
2. 05 - 06 年度「月間ホームページ委員会」より
 「ガバナーズ・マンスリー・レター」掲載用原稿依頼
3. R I 2004 年度国際大会実行委員会より
 記念記録誌 (2,000 円) 記録 DVD (1,000 円) 申込書 ご希望の方は事務局まで
4. 鳥取西 RC より
 創立 25 周年記念誌が届きました
5. ガバナーエレクト事務所開きのご案内
 日時: 7 月 1 日 (金) 13:30 ~
 場所: ガバナーエレクト事務所 (わこうビル 206 号室)
6. 退会のお知らせ
 能勢隆之君

今週のお祝い

夫人誕生祝: 1 日西村正男君 18 日瀧井英二君 19 日吉岡朋美君 30 日小谷維夫君 結婚祝: 4 日 岩崎浩君 10 日西上哲弘君 27 日松本啓君 スマイル BOX ¥16,000 (累計 ¥100,000)

出席 100%: 井上君 「日韓親善民間交流推進団」で江原道に訪韓致しました。: 杉原君 長い間念願だった鹿児島県の尾久島に行き縄文杉を見てきました。卓話で息子がお世話になりました。: 新納君 福生東小ミニバスケットボールチームが優勝しました。: 梅田君 夫人誕生祝: 瀧井君 小谷君 結婚祝: 西上君

プログラム

「皆生トライアスロン 25 周年を迎えて」
 高木均氏



皆生トライアスロンで参りました。今までいろいろな役職のものがお話しをしたと思いますが、今日は 25 周年ということで、少し過去を振り返った話、そして抱えている問題点などをお話させていただけれ

ばと思います。

トライアスロンというのは、世界で年間に3,000程度の大会が開催されます。かなりのものですが、競技人口は約200万人。特に歴史的にはハワイから始まって29年の歴史があります。国内では150の大会があり、その中で最も古く、最初に開催されたのが、皆生トライアスロンです。ご存じとは思いますが、当時の皆生温泉は開業60周年を迎え、何らかの派手なイベントをやる、「皆生温泉ここにあり」というものを全国に知らしめようということで始めたのが、皆生トライアスロンです。

その時のテーマは「海を活かそう」「健康的なイメージで」「日本一か日本初」ということでした。それを当時の温泉の若旦那たちが相談され、見つけたのがトライアスロンでした。

1981年8月に第一回開きましたが、お手元の資料で当時と今を比較していただきたいと思います。第1回は102キロの距離。今年は190キロです。選手数は第1回は53名(うち女性2名)、今年は過去最大の800名のレースになります。また裏方/スタッフの数は第1回は200から250名、近年は3000名のスタッフを抱えています。予算規模は、第1回は米子市のご予算から400 - 500万円の規模でしたが、今年は25周年でもっと華やかに、もっと安全に、ということで、6,000万円になりました。選手は800名なら山陰は100名程度で、あとは全国から家族と一緒に旅行がてらお越しになります。そしてこの大会は素晴らしいという、いろんな思いを持ち帰っていただくということでございます。延べ参加者はすでに1万人を超え、今年で1万1千人になるかという方が、皆生のゴールテープを切られたわけです。

皆生トライアスロンがこの町に残した功績は、大きく4つの事があると思います。最初は皆生温泉のPRの為に始められたので、鳥取県の観光地振興ということでお役に立ったのではと思っています。皆生(かいけ)をカイキ、ミナイケなどと呼ばれていたこともあったようです。とくに週刊誌などが「トライアスロン」は面白いと、こぞ取り上げてくれました。又、第1回の優勝者がフォークシンガーの高石ともやさんであったため、芸能ニュースにも「高石ともやがとんでもないスポーツをやった」というニュースが、全国津々浦々に広まり、それに併せて皆生温泉の名前も広まって行きました。特に鳥取県の米子市にあるという情報が広まっていきました。

さらに選手、家族の皆さんのエイドステーションもそれぞれ名称があって、あわせて知っていただくことができたと思います。(植田正治写真美術館や古代の丘など)

2点目は地元のボランティアスピリッツの育成という点です。特に大会7回目くらいからお手伝いいただいている青年中央会や商工会議所青年

部、商工会のみなさんが自らもボランティアでありながら、まわりのボランティアを教育していただいて盛り上げていただき、ボランティアがボランティアを呼び、また育てたというようになりました。特に選手はへとへとに疲れても、ボランティアから名前を呼んで応援してもらって、一層頑張っていて完走できたという事もございます。

3点目は最多で11の市町村が大会を支えました。県西部だけにとどまらず、赤碓町までご協力いただいたということで、地域連携、広域行政のあり方の例となったのではと考えています。

4点目は、地元のみならず、全国の選手の育成に役立ちました。特に地元の小原工選手はオリンピックに出場できました。もともと水球の選手でしたが、地元でのレースを見て出てみたいと思い出場したら50位台でした。あまりに情けないので優勝するまで練習を重ね、その結果皆生で優勝し、さらに上のステップを目指し、都会へ出て専門コーチにつき、日本一になったのです。いまでもミスター・トライアスロンは小原選手のことを言います。これからも次ぎに続く選手もぜひ育てようと、鳥取県の選手会が中心となって、子供選手の育成をやっております。夏休みになったら安全に楽しいトライアスロンを講習しています。

25年を振り返ってみますと、いろいろな問題もあり、どこかがプラスに進むと、どこかがマイナスになり、毎年それと戦いながら運営委員として知恵を絞っています。課題としては交通量が増えて道路事情がゆるさなくなったこと。ゴール地点が一番奥の皆生温水プールに、ゴールと大会本部を置くわけですが、その地域が住宅が増えて過密な状態になってきて、温泉病院もあり、住民の方にご迷惑をおかけして、おしかりをいただいたこともあります。ゆくゆくは町中の陸上競技場などは使えないか調査中です。

現在日本の大きな大会は宮古島、佐渡、五島列島、北海道とほとんどが島でおこなわれています。本州で190キロに及ぶ大会は皆生だけです。ロング大会は非常に運営が難しく、時間との戦いでもあります。遅い方は14時間半、早い人は8時間半くらいで帰ってきます。その間道路を利用するわけです。自転車は車とすれ違い、マラソンは歩道を9割方使用しています。歩道は部分的に斜面になり、博愛病院前では歩道橋を使用しています。

昨今、景気の関係でボランティアの集まりや応援が少し少なくなったかなと感じます。スポンサーも厳しくなり、選手参加料も値上げさせていただきました。30回までは見てみたいと思いません。交通事情など、宮古島までは無理としても、1000人規模の大会も目指したいと思っています。また、現在90%を超える完走率を100%に出来ないものかと考えています。今後ともいろいろなご協力をよろしくお願いいたします。